

Before
After

道しるべ

道徳通信

上尾市立太平中学校
道徳通信 第4号
令和5年9月8日(金)
発行者 校長 井浦 博史

夏の記憶



1学年職員

今年も鎮魂の夏が過ぎようとしています。幼いころから私にとっての夏は終戦という言葉とともにあったような気がします。祖父母や両親が何気なく口にしていた戦争の記憶の断片が、私の夏の思い出と結びついているからかもしれません。

小中学生のころ、夏休み中のお盆前には登校日という日があって『戦争と平和』について考える1日でした。その頃は、学校にエアコンはない時代でしたので、むせかえるような暑さの中、体育館に全校児童生徒が集まって黙とうをしたり、教室で『戦争と平和』について学んだりする特別な日でした。当時は、「こんな暑い中、なんでわざわざ学校に来んといけんのんでえ（来なければならぬのか）」と不満に思っていたものでしたが、今となってはその時間の大切さがわかります。1945年の8月6日と8月9日は世界が平和を祈念する日。後にヒロシマ・ナガサキを修学旅行などで尋ねたときに戦争の理不尽やそこに生活していた人々の悲しさ・苦しさを自分事として追体験できる土台となった時間だったと…。

高校生になって、体育祭の閉会式の教頭先生の万歳三唱は母校の名物でもありました。「この万歳を若者の平和の宴の締めくくりとともに唱えられることは感無量。」今よりももっと無知であった私は、その言葉の重さを知る由もありませんでした。

以前、黒柳徹子さんが戦争時の記憶を語られる場面をTVで拝見した時、小学校5年生で青森に疎開されていた黒柳さんが、～街角の停留所でラジオから流れる「玉音放送」（内容は子供にはよくわからなかったが）を聴いていた大人たちが「戦争が終わったらいい」と話しているのを聞いてスキップをして家に帰ったのを覚えています。～と語られていたことが強く印象に残っています。

コロナ禍という「非常時」を生き抜くために様々な自粛を強いられた3年間を思い返しながらか、78年間という当たり前のことが当たり前にできてきた日々がとていとおいとおしく思えた今年の夏でした。

君たちはどう生きるか

2学年職員

社会現象にもなっている宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか」という映画を耳にしたことはありますか？映画もですが、ぜひ皆さんには、吉野源三郎さんの原作を読んで「生きる」とは何かを感じてもらいたいと思います。あらずじとして、14歳の少年コペル君が身近に起きるいじめや差別に対して、叔父さんのアドバイスを聞きながら自分で答えを探して成長していく物語です。私たちの身近に起こりえることが物語になっているので、自分のことのように考えさせられると思います。今の皆さんはどんなことを考えて生活をしていますか？

皆さんは、どんな進路を実現したいですか？
どんな仲間に出会いたいですか？
どんな生活を送りたいですか？
どんな人生を送りたいですか？
どんな人と出会いたいですか？



唐突ですが私には、心から尊敬する人がいます。それは、自分の「妻」です。尊敬するところはたくさんありますが、凄いと感じるところは、相手を尊重・敬意を持って接するところです。

自分の人生観や今までの見方・考え方が変わるはずで、ぜひ、活字から自分の新しい世界を広げてみてください。

『幸せ』ってなに？

3学年職員

本校では生徒の表現する力や発表する力、聞く力などを高めるために、定期的に朝の時間を使用してT L I



(Taihei Learning Innovation) を行っています。この時間で生徒は話し合い活動を行い、発表を行います。答えがある課題もあれば、答えがなく意見を交換し合う課題もあります。先日の課題では「『幸せ』って何？」というテーマを班で話し合い、その後、班の意見を発表するというT L Iを行いました。「毎日朝食が用意されていること」「友だちと話すこと」「寝ること」と、とても中学生らしい多様な意見が飛び交いました。

しかしながら、一歩進んでその理由を考え出すとなかなか意見がでてきません。私自身も『幸せ』を感じることは多々ありますが、その理由を問われると考え込んでしまいます。しかしながら、その『幸せ』を感じる理由こそ、自分の人生の最大の目的なのではないかと感じました。大切だけど「正解のない問い」。ぜひご家庭でもそんな話し合いをしてみてください。

自分を変えるためには、...

にじいろ学級担当

夏休みが終わり、早速テストや行事が始まって、ばっちり学校に通う生活習慣に戻ってきた頃ですね。この2学期をきっかけに、勉強や部活動などを改めて頑張ろう！という気持ちでスタートを切っていますか？

私は皆さんと同じ学生の頃、1冊の本に出会いました。その本は、スティーブン・R.コヴィーさんの『7つの習慣-成功には原則があった-』（キング・ベアー出版）という本です。この本は、いわゆるビジネス書の類のもので、約30か国語で翻訳されています。

この本を書いたスティーブン・R.コヴィーさんは、1776年以降のアメリカで出版された『成功』に関する文献を全て読み、その結果、『成功』する人には、驚くべき傾向があることに気づき、この本を執筆したそうです。

みなさんは、保護者の方に「早く宿題やりなさい！」と言われて、「今やろうと思ってたのに、やる気なくなったわ...」などと思ったことはありませんか？このような考え方では、いつまでたっても、宿題は進みませんよね？スティーブン・R.コヴィーさんは、そのように状況を変えたければ、まず自分を変えなければならない。自分を変えるためには、自分の物の見方を変える必要がある！と言っています。「今やろうと思ってたのに、やる気なくなったわ...」の本音は、宿題をやりたくない言い訳に、保護者の方に「早くやりなさい！」と言われたことを使っているのです。なので、「今やろうと思ってたのに、やる気なくなったわ...」ではなく、「今終わらせれば後から好きなことがいっぱいできるから頑張ろう！言ってくれてありがとう！」と考えることが大切です。このような考え方を、『パラダイム転換』と言います。

スティーブン・R.コヴィーさんの本では、このパラダイム転換を行える人が『成功』を掴めるとし、そのパラダイム転換をできるようにするためには、この本のタイトルにもある、7つの習慣、つまり、『意識したい7つの考え方』を実行することが大切として言っています。その7つの習慣がどのようなものか気になった人は、実際に本を読んだり、調べたりしてみてください。

